湘南サッカー部
OB会報
第44号

U-18世代サッカー雑感 ～キャリア選択の視点を加えて

51回生 八木 啓太

出身大学の総監督退任後も高校生のリクルーティング活動を任され、続けている。

福井先輩の下で動いていた時代からもうかれこれ 15 年。プレミアやプリンス、選手権や総体というレベルの試合を観戦したり、指導者の方々と交流する機会が多い。

申し訳ないことに湘南の試合はもう何年も観ていないのでそこは何も書くことはできない。一方でキャリアカウンセラーに従事していることからその視点を少し加えてみようと思う。

日本代表がセレソンに勝つ時代になった。まさに隔世の感でU-18 世代も大きく変わっている。今、ハイレベル（プリンス以上か…）なこの世代選手の多くのキャリア目標は「プロ」であり、しかもトップクラスは欧州を見ているであろう。それは最早「夢」ではなく、ロールモデルもいて現実感のあるものである。そういう状況の中で、日本の最大の特色としては大学サッカー経由でプロに進むケースが増え、その中でも三苫はじめ、欧州で世界のトップを張ってる選手もいることは世界も驚きの目で見ているのは事実である。

大学サッカーを経由する、しないがこの世代ハイレベル選手の迷いどころでもあるが、彼らはその 3 年前にもクラブ（主として J 下部）or 高体連のキャリア選択をしている。選択と言っても、彼らの思いのままになる訳では当然ないが、どちらの進路のほうが将来プロ選手になれる確率が高いか?ということを中学 3 年生の時点で考えているのであろう。

唐突ながら、私なりに高体連とクラブを比較してみたい。

多くの指導者との交流の中で、それぞれ重視するものは両者間で下記のように異なると感じてきた。もちろん、チーム特色がある前提での話ではある。

◆高体連

- よい意味でまだ「教育の一環」の前提あり
- 高見を経験するために勝ちたい（勝たせてあげたい）意識が高い
- 直接プロにいける一部のスーパーを含めて大学体育会でサッカーを続けて欲しい（将来の選択幅を広げて欲しい）

◆クラブ

- 社会に通用する良きサッカー人づくり
- 勝敗への拘りを教えながらもトップチームで活躍できる選手のクラブ理念、プログラムに則った育成を重視
- 大学体育会の位置付けはトップチームに上がれない選手の受け皿。そのための進路指導

基本的には、J 下部 U-18 に上がれない、入れない選手が高体連強豪校へという図式が一般的ではあるが、それぞれの特徴を理解した上で自分に合った選択をして欲しいところであり、それが両者の発展的な競合や共存共栄に繋がるのだと思う。

OB 会報ゆえ、やはり湘南サッカーにも触れねばならないのだろう。

過去にサッカー強豪校の時代があり、今は「そこそこ」の公立の伝統進学校…　湘南や浦高、西では神戸高や広島国泰寺などの生徒は、サッカー以外の将来キャリア選択の幅が広いことから、本気でプロを目指す選手が最も出にくいのではないだろうか。プロになることだけを是とするつもりは毛頭ないが、そこを目指すギラギラ感を持った選手がいることはチームによい刺激を与えるだろうことは想像に難くない。そんな意味で、湘南にも本気でプロを目指す選手が出てきても面白いね、と無責任に思う。

大学に進学して学問に取り組みながら、サッカーでも成果を出してスカウトされてプロの道へ。そして、選手引退後は、その貴重なプロ経験を活かした当人ならではのセカンドキャリアをまた歩み始める…

そんな将来を夢見てもいいのではないだろうか。

O-70 神奈川交流会が90歳プレイヤー 塩川さんに「寿ユニフォーム」を贈呈

30回生 中原 弘巳

29 回生塩川儒広さんが、90 歳を迎えるプレイヤーが着用する「寿」の字をあしらった記念ユニフォームを、神奈川交流会から贈呈されました。塩川さんの長年にわたる努力、鍛錬の積み重ねの結果と思い、心から敬意を表します。

塩川さんは湘南卒業後、創立間もない防大に進まれ、サッカー部でも活躍されました。防大は新規チームながら関東大学リーグ 2 部に所属し、なかなか強いチームでした。卒業後は航空自衛隊に進まれ、ジェット機パイロットも務めておられました。任務の都合上、サッカーからは離れておられましたが、50 代半ばからプレイを再開されました。塩川さんが 56 歳の時、ねんりんピックやまなし大会でサッカーが行われ、私は塩川さんと横須賀チームに加わって出場しました。これが芝生の素晴らしい環境で各地の仲間と交流して楽しむシニアサッカーの最初の体験でした。ここから、今日まで続く塩川さんのシニアサッカー人生が始まりました。

この頃、全国的に高年齢シニアサッカーの機運が盛上がり、各種の大会が O-60 カテゴリーで始まりました。当初、26 回生の山本

修さん、塩川さん、私など新制高校卒メンバーは、湘南中学 OB チームの若手として大会に参加しました。早川さん、桑田さん、小林さん、小田島さん、など超OBの名選手の方々と共にプレイ出来る楽しい機会でした。この湘南 OB チームを湘南ペガサス O-60 が引継ぎ、刈谷大会、清水大会、JFA 全国シニア大会などに開催初期から参加しました。2002 年の敬老の日には全国ネットで湘南ペガサスの試合振りが紹介されましたが、塩川さんの見事なロングシュートが放映されました。ねんりんピックではサッカーが正式種目となり、塩川さんは神奈川代表で4回参加しています。我々の年齢に合わすかのようにやがて O-70 の大会が始まり、全国シニア大会、清水大会、刈谷大会、福井大会、掛川大会、那須大会、熊谷大会、深谷大会等、多くの大会が塩川さんの活躍の場所となりました。そしてやがて始まる O-80 大会にも参加されています。

塩川さんは SOI（旧制高校 OB のチーム）の海外遠征では、ワシントン、スエーデン、タスマニア、ウイルミントン、シアトル等を訪れて各地の方々と交流を重ねておられました。湘南ペガサスのゴールドコースト海外遠征にも参加されました。試合の合間の観光としてホエールウオッチングで搭乗した小型飛行機では、かってのジェット機名パイロット塩川さんが操縦席に乗り移り、我々の命を預けたこともありました。

シニアサッカーの目的は、楽しみながら生涯現役を目指すことですが、塩川さんは、海外を含めての遠征参加や練習会への継続的な参加で、90 歳プレイヤーとしてこのことを成し遂げられました。今後も我々シニアプレイヤーの目標として長くグラウンドに立って戴きたいと思います。

書評：ガンさんの箱
植松二郎先輩のサッカー小説『岩箱』

48回生　細川 周平

1970 年代まで湘南高校サッカー部員だったなら、顧問兼総監督だった岩渕二郎、通称ガンさんをよく覚えているだろう。私たちのセンパイにあたる植松二郎さんの『岩箱』はそのガンさんをめぐるモデル小説で、もう一人の教育大出身の実戦派監督や、教育大（筑波大）付属戦、対組のような卒業生なら思い出される催しや、校舎エリアよりも低い場所に広がる校庭を背景に散りばめ、元部員には思い出されることがいろいろ多い。高校サッカーのほか、この種目の日本や世界の歴史・趨勢にあちこちで深入りし、主人公のサッカー人としての顔を大きく描いている。サッカー小説と呼んでもかまわない。めったにないことだ。

ガンさんは大正末、創立まもない旧制湘南中学在学中、イギリス流紳士づくりのための新奇なスポーツとして珍しく採用されたア式蹴球（アソシエーション式フットボール）を覚えた。つまり日本サッカー草創期を生きている。大柄で運動神経が良く頭角を現わし、卒業後も先輩として指導にあたった。出征復員後、1946 年、戦後最初の国民体育大会（国体）に湘南中が県代表として参加した際、総監督の立場で優勝に導いた。それから数年、宮城県の農業学校で教員をつとめた後、1950 年代には新制の湘南高校にもどって、英語教員のかたわらサッカー部顧問・総監督となる。小説では母校とこの競技への深い愛着故と解釈される。そして高校のグラウンドがなぜかワールドカップに通じる。1954 年大会のハンガリー優勝チーム、通称マジック・マジャールの先端的 MM フォーメーションが、神奈川県の一高校で再現されたというのだ。植松二郎はその指導を受けた湘南サッカー部関東大会優勝チーム（1966 年）のレギュラーで、部史のなかで語り継がれるヒーローである。

物語はガンさんの箱入りの遺品（だから岩箱と呼ぶ）を没後約半世紀、作者である「私」が同学年の元部員から受け取るところから始まる。ボールを蹴る青春を軸に、個性的教師の人生を振り返るのがあらましで、農業学校教員、定時制教師などの経歴が突き止められるのだが、謎に残るのは出征で、岩箱資料は黙ってしまう。ハイライトが坂口安吾への自作探偵小説をめぐる書簡で、自ら探偵物を書く作者の書きぶりはかなり熱っぽい。旧師の思いがけない文学活動は「私」を驚かせる。サッカー教師としての顔しか知らなかったのが、実は昭和の一流雑誌『新青年』に作品を投稿し、作家たらんと目指したが、教師兼サッカー部顧問として後半生を送った。そこまで分かったが、岩箱からは期待された未発表作は発見されない。謎の筆名を解き明かすと意外な事実が・・・。

恩師の思い出＋半生掘り起こしというありがちな話に終わらず、学外（グラウンド外）に思わぬ世界が広がっていたことに調査は向かう。ちょうど「私」はガンさんの享年に達し、ただ懐かしい、昔はよかったに留まらない感慨に襲われながら、岩箱の底をさらう。周囲には衰えたり亡くなる者が珍しくなく、老いに共感している。箱から順にお宝が出て新発見につながるというより、遺品をきっかけに自分たちの知るガンさんを思い出し、知らないガンさんを想像するところに主眼が置かれている。半世紀前ともに MM フォーメーションで走った仲間が順に老いていく。遺品はこのあまりに月並みな真理を思い返す触媒となる。ほんの一部しか知らなかったサッカー先生の人生を断片から像に仕上げつつ、自分たちの人生を振り返っている。何度も年表を作ろうとするが完成しない。時代を行きつ戻りつ、逸話のなかに入ったり外に出たりの語り口は巧みで、推理小説に似てなくもない。パズルを組むような書きぶりは作家の本領発揮で、伝記仕立てでは伝わらない共感が込められている。

植松さんの十年ほど後輩、1970 年入学の元部員として、ガンさんのことは忘れられない。いや、これを読むまで彼のことも高校時代も思い出すことはなかった。ふだん忘れているのに本当は忘れていないというほうが現実的だ。その頃ガンさんが還暦すぎだったと今分かる。放課後指導の中心は本書にも C の名で登場する若い体育教師で、メキシコ五輪銅メダルのプレイを高校チームに取り込んだ。同じ学年には横山、八重樫、釜本にあたる選手はいたのだが、杉山がいなかったため、関東大会へは進めず、県大会のありきたりの戦績で終わった。

選手然としたその体育教師が次の試合目指してコーチしたのに対して、ガンさんは夕暮れ時に突然現われ高校生の相手をした。本書で描かれるほど走り蹴る投げる運動ぶりではなかったにしろ、トーキックで相手の意表を突くパスは鮮烈に

思い出す。監督の上にいる総監督とやらで、練習の後の一言を求められると、本書にもあるように警句を発した。在学中、自宅へ部員がどっと呼ばれ、奥さんとも見知ったはずだが、体育教師のお招きと混同しているかもしれない。ついでだが、今は私がちょうどガンさんの享年となり、本作がいっそう身近に感じられる。もうひとつついでだが、本書は箱入りの凝った装丁で仕上げられている。岩箱にちなんだのかどうだか。

名言録のなかでは「球はたま(きんたま)の下で蹴れ」をよく覚えている。「きんたま」と声に発するだけで、当時の男子高校生はタブーに触れたようにキャッキャッ笑ったものだ。女子に聞かせてはならない単語だからだ。本書でも引用されている。ほかにも「精神力だけではフットボールの試合に勝てない」、「だれも衰える」、「理論には秘密がない。戦術のほとんどは秘密」など今もぐっとくる文句もあるそうで、サッカー警句と人生警句が一体になっている。記憶にはないが口ぶりは想像できる。小説はそれをいちいち解釈せず、彼の文章上の好みと性癖を表わすものとして引用する。その延長に安吾好みの賢く口達者な探偵がいるかのような設定だ。するとガンさんの思考回路でサッカーと推理小説は一つながりだった。これが本作の肝である。

著者：植松二郎　41 回卒。広告制作会社に勤務後、フリーで作家として活動。小説『春陽のベリーロール』で織田作之助賞受賞。

書評：細川周平　48回卒。国際日本文化研究センター名誉教授。『遠きにありてつくるもの』で読売文学賞受賞。

書籍『岩箱』は亀鳴屋より発売。通販で販売。

https://kamenakuya.main.jp/book/

☎ 076-263-5848

ペガサス70活動報告

ペガサス70代表　46回生　森　秀樹

ペガサス 70 は基本的に O-70 と O-75 の二つのチームに分かれて活動しています。

毎週火曜日には自由参加の馬入交流会がありますが、この交流会で月に一度「ロイヤルリーグ」が開催され、ここではペガサスの 70 才以上のメンバーが一緒になって湘南ペガサスとして試合をしています。

1．O-70 の活動

ペガサス 70 は、O-70 神奈川リーグ（JFAL）、神奈川シニアサッカーリーグ（KSSL）のリーグ戦と県議長杯トーナメントが主な公式戦となっています。また、対外試合としては、第 22 回栃木 G リーグ（6 月）に参加、第 18 回東日本ロイヤルエイジサッカー大会（11 月）に参加予定です。

JFAL は、今期 12 チーム 2 回戦総当たりで進められていて全 22 試合です。この原稿を書いている 10 月半ばで前半の 11 試合と後半の 1 試合を消化。成績は 3 勝 7 敗 2 分で現在 12 チーム中 8 位です。残り 10 試合で 5 位以上を目標にしています。

KSSL は、12 チーム 1 回戦総当たりで進められていて全 11 試合です。現在のところ、2 勝 2 敗 4 分で 12 チーム中 6 位です。残り 3 試合で一つでも順位を上げていこうとメンバー一丸となって奮闘しています。

サッカーの活動報告となるとどうしても試合結果やリーグ戦での順位の話が中心になります。もちろん勝つことを目的にチーム全員が一丸となって試合に臨むのですが、ペガサスサッカークラブ会則には勝敗や成績に関する事が一言も触れられていません。湘南ペガサスサッカークラブ会則の「第 3 条 目的」には、

本会は、以下の事を目的とする。

1. サッカーを通じて会員相互の親睦をはかり、心身の健康を増進する。
2. 本会発祥の趣旨に鑑み、神奈川県立湘南高等学校サッカー部の発展に資すること。

とあります。目的は、「会員相互の親睦をはかり、心身の健康を増進する。」、「湘南サッカー部の発展に資する。」の 2 点です。私は高校卒業後、大学でも企業でもサッカーを続けてきました。40 代にペガサスサッカークラブに入って約 30 年ペガサスでプレーしていますが、70 才となると体力の衰えを身に染みて感じます。それでも、私がサッカーを続けている理由は、「心身の健康を増進する。」ためと「現役サッカー部を応援する。」ため、さらに、ペガサスサッカークラブの活動を応援して次の世代に継承するためです。先輩が作ってくれた何歳になってもサッカーをすることが出来る場を提供し続けるためです。

これからもこの目的に沿ったクラブ活動を続けていきたいと考えます。

「ペガサスへの勧誘」について：

ここで、今回の OB 会報のテーマ、「ペガサスへの勧誘」について思うところを書いてみます。

ペガサス 70 の現状を見てみますと、「来るものは拒まず、去る者は追わず。」の精神で入会希望者を受け入れていますが、今年度入会した会員は全員、湘南 OB ではありません。そして、彼らの入会希望理由は、ペガサス 70 で楽しむサッカーをしたい、というものです。

ペガサス 70 は毎回試合に 15 人以上集まるのでゲーム人数不足に悩むことはほとんどありませんが、湘南 OB が少ない事が最大の問題です。

私の知る70才以上の湘南OBでペガサスサッカークラブ以外でサッカーを続けている人は、大学や中学のOBチーム、全国大会出場をねらうチーム等、それぞれの目的に合ったチームでサッカーをしていると思います。この人たちをペガサスに勧誘しても入会してもらえそうにありません。現在所属しているチームを離れてペガサスサッカークラブに入った場合、どんなメリットがあるか？　ペガサスの魅力をもう一度考え直してみる必要があるように思います。

一方、40 代、50 代のチームではできるだけ多くの湘南OBに声をかけて勧誘する事を期待します。仕事や家庭で忙しい時期ですが、やる気になればまだまだやっていける可能性は高いと思います。

2．O-75、O-80 の活動（二木修二さん記）

毎週火曜日に開催される交流会では 6 月に今年度 90 歳を迎える 3 人の選手に「寿」の字をあしらった記念ユニフォームが贈呈されました。その内の 1 名は湘南 OB の塩川儒広さんでした。

塩川さん、おめでとうございます。タウンニュースで紹介されました。

O-75、O-80 では、これまでのスーパーロイヤルリーグに加えて、来年度からの活動が予定されている「KSKSSL75 雀／80 雀」に備えて、試験的な試合を行うプレシーズンが 10 月より始まりました。KSSL は現在、O-70 カテゴリーまでの活動が中心ですが、今回のプレシーズンの実施状況を踏まえ、来年度からは O-75 および O-80 カテゴリーにおいても本格的な活動が開始される見込みです。

「KSSL75 雀／80 雀」には、湘南高校 OB から 10 名が登録しています。

「KSSL75 雀」は 4 チームで構成されています。湘南 75 は、湘南、栄光、丹沢の合同構成で、総勢 30 名が参加しています。10 月 10 日の初戦で湘南ペガサス 75 はウエスト 75 と対戦し、5 対 0 で快勝しました。

「KSSL80 雀」には、湘南ペガサスから 7 名が登録しており、「KSSL80」の試合は「赤 80」対「白 80」の組み合わせで行われました。登録人数が少ないため、8 人制での試合となりました。結果は、赤 80 が 1 対 0 で白 80 に勝利しました。O-80 は人数集めに苦労している状況にあります。

トーラス65活動報告

49 回生　元松 経男

今年度は 67 歳から 72 歳までの 23 名で神奈川シニアリーグ O-60 の 2 部に参加しています。

ペガサス 60 の人数増加による試合出場機会の減少を解消するために、65 歳以上で分離結成されたトーラスですが、今年はペガサス 60 からの移籍は 1 名のみでした。また、ペガサス 70 への完全移籍が 2 名、二重登録が 3 名となりました。

今年は 60 歳以上のカテゴリーである O-60 リーグでは、2 部 15 チームの中で各チームが 10 試合を行う形式となりました。例年になく猛暑続きの夏でしたが 7 ～ 8 月は極力試合をなくし、暑さ指数（熱中症指数計 -WBGT）によって厳密に試合環境を管理してリーグ戦を開催しました。

結果は 2 勝 5 敗 3 引分。得点 4、失点 8、得失点差－ 4 で勝点 9 となり、15 チーム中 11 位となりました。立派です!　60 代前半の若手中心の他チームに対して、67 歳以上で互角に戦い、上位チームに勝利することもあり、楽しくそして悔しいゲームが続いたシーズンでした。

今年も得点力不足に泣いたシーズンですが、全員参加で、強いチームにも弱いチームにも僅差の勝負が続いた緊張感のあるゲームばかりでした。

そのためでしょうか、試合後の反省会も毎回サッカー論議に花が咲いていました。

また、メンバーの内 6 名はペガサス 60 に登録して、県協会主催の全国シニアの O-60 予選リーグにも参加しています。

そして、シニアリーグ参加チームによる交流会では県内各地でゲームの機会を提供していますので、所属チームに関係なく平日にボールを蹴る機会はたくさんあります。メンバーの大半は横浜・平塚・綾瀬・小田原等のグランドへ出かけていき、他チームの皆さんと交流戦を楽しんでいました。

60 歳を過ぎても楽しくボールを蹴る機会はたくさんあり、仕事を卒業して生まれた時間で新しいサッカー仲間を作ることも出来るのです。

湘南サッカー部 OB の皆さん。ボールを蹴る楽しみを取り戻したい方、ぜひ仲間に入ってください。

シーズン後半戦にも試合はたくさんあります。10 月からはシニアリーグの県議長杯トーナメントが始まります。1 部・2 部の総当たりです。

そして、県外での大会にも積極的に参加しています。栃木の G リーグ、千葉のマスターズ、静岡の家康公杯等々です。ペガサス 60 と合同で O -60 カテゴリーに参加することもあれば、ペガサス 70 と合同で O -65 カテゴリーに参加もします。

1 泊 2 日の参加の時には、70 や 60 のメンバーとも一晩サッカー談義です。

まだまだサッカーは応援するだけでなく、自分で参加できるものです。ぜひ、一緒にボールを蹴りましょう。

ペガサス60活動報告

ペガサス60監督　55回生　藤原　新

2025 年度のペガサス 60 は 25 名の選手で活動しています。今年度は神奈川シニアサッカーリーグ（KSSL）六十雀リーグで一部に復帰すること、トーラス 65 との合同チームで参加している神奈川県サッカー協会シニア部会の O-60 リーグで中位以上に進出することという目標を掲げてスタートしました。

KSSL では、開幕戦こそ 2 － 0 で勝利した（相手チームの選手登録ミスで記録上は 3 － 0 の不戦勝となった）のですが、その後は勝ちきれない試合が続き、三節連続の引き分け。その後も苦戦が続き、全 10 試合のうち 6 試合を消化して2勝4分。他の上位チームが順調に勝ち点を伸ばす中、崖っぷちに追い込まれることになりました。

試合日程の都合で一か月ほど試合間隔があいた第 7 戦を 2 － 0 で勝ったことをきっかけに、続く 2 試合を 1 － 0、4 － 1 で連勝し、自力優勝の可能性が復活。二部優勝がかかった最終戦、勝利だけが求められる重圧のかかった試合を 1 － 0 で勝ち切り、二部優勝、一部昇格を勝ち取りました。苦しい状況からの 4 連勝。1 試合ごとにチームの成熟が進んだ結果でした。この頃には、試合ごと、時間ごとに 3 バックと 4 バックをうまく切り替えることができるようになり、手ごたえを感じながら戦うことができました。

結果的には 6 勝 4 分の無敗での優勝。これで来年 2 月の丸尾杯（チャンピオンシップ）への出場権も確保し、12 月の県議長杯と合わせて、まだまだペガサス 60 のシーズンは続きます。

県サッカー協会の O-60 リーグでは、十月末現在、2 勝 2 敗 1 分、ブロック 9 チーム中 5 位と中位につけています。兄弟チームであるペガサスとトーラスの選手の融合、相互理解も進んできてチー

ムとしての一体感も感じられるいい戦いができています。

公式戦以外にも、練習会、練習試合、懇親会などの機会も作っています。今年度は、トーラス 65 と合同で、清水、千葉、栃木の大会へも参加しました。

ペガサス 60 は、全員の力で戦うことを大切にするチームです。可能な限り参加者全員がゲームに出場して試合を楽しむことができるようにしています。もちろん、体力、体調、技術や特徴など一人ひとり違いますので、選手に合った時間、ポジションで無理なく怪我なくサッカーを楽しめるよう、工夫しています。

還暦を過ぎ、「今更サッカーは」とお思いの方も多いと思いますが、ここで一歩踏み出してみませんか?サッカーを続けるうちに気持ちも身体も変わってきます。ペガサス 60 の仲間には湘南の OB もそうでない方もおられますが、みな気持ちのいいサッカー好きばかりです。そんな仲間とのサッカーは、得難い生活の張りを与えてくれます。湘南高校でともにボールを追った OB のみなさんがペガサス 60 に参加され、また同じチームでサッカーを楽しめるように願っております。

少しでも関心を持たれた 60 代の OB のみなさん、まずは藤原(khb03502@nifty.com)までご連絡ください。

ペガサス50 2025年度活動報告

67回生 津上 康正

67 回生の津上と申します。10 年前に縁があって松戸市リーグで社会人サッカーデビューし、主に葛飾区で細々とサッカーをしていたため、OB でありながらペガサスとは無縁でしたが、2 年前にペガサス 40 現代表の浜崎さんに勧誘されて入団させていただくことになって 2 年間活動し、本年度からペガサス 50 でお世話になっています。

ペガサス 50 では神奈川県シニアサッカーリーグ五十雀 3 部(以下「KSSL」)と全国シニア選手権予選 O-50 神奈川リーグ(以下「O-50」)の 2 つのリーグに所属しています。今季は卒業するメンバーはいなかった一方、64 回生の羽田さん、善木さんなど私も含めて計 7 名が新加入し、KSSL は 32 名、O-50 は 60 代の助っ人参加も合わせて 29 名で活動しています。

今季のここまでの戦績ですが、O-50 では、執筆時点で 2 勝 2 敗ながら格上と思われる相手に勝利あり、負けても得点ありと悪くない戦いができていると思います。KSSL は、昨季は 3 位となり 2 部との入替戦に臨みましたが 1 − 1 の引き分けで惜しくも昇格なりませんでしたので、今季も再び 2 部昇格を目標として臨み、前半 4 戦で 3 勝 1 分と快進撃のスタートでしたが、その後上位チームに 3 連敗で 5 位確定したのちに、雨で延期になっていた最終戦に勝利し 4 勝 1 分 3 敗となりました。今季も 2 部昇格はなりませんでしたが、順位変動がなくても勝ち越して終われたチームを誇って来季に繋げられるといいと思います。

プレー面について、ディフェンスでは走力の高い相手に対しても防げたシーンがありながら、私自身にも心当たりがありますが、自陣でのミスからの失点が多かったので、これを減らすことが上位浮上への課題と考えます。オフェンスでは、相手によっては縦に大きく蹴るサッカーもしますが、連動すれば素晴らしいパスサッカーもできるので、サポートする意識を持ち続けられると得点チャンスも増やせるはずです。

昨季は試合によっては 11 人ギリギリになることもあったようですが、今季は人数がだいぶ増えたこともあり、その心配はなくなった一方、1 人 1 人の出場時間が少なくなってしまうということがありました。しかし参加者全員が出場できるというコンセプトで運営をしていますので、たとえ試合に勝てなかったとしても不満を口にするようなメンバーはいませんし、皆さん納得して勝っても負けても楽しんでプレーしていただけているようです。

チームの雰囲気としては、私のようにブランクがあったり、学生時代に未経験の方もいたりする中で楽しくサッカーできていますし、飲み会はプレー時以上に盛り上がって皆さんいい人達でありがたいです。

このようにサッカー経験が浅くても真剣に楽しくサッカーができるチームです。是非、誘いあったりご紹介いただいたりして、仲間を増やしていきたいので皆さんよろしくお願い申し上げます。

ペガサス40 2025年度活動報告

73回生 藤田 英峰

ペガサス 40 では、主に土曜開催の全国シニア選手権予選 O-40 神奈川リーグに「湘南ペガサス 40」単体として、主に日曜開催の神奈川県シニアサッカーリーグは「藤沢四十雀」と合併し、「湘南藤沢 40」として参加しています。現在、土曜リーグは 2 部(A、B、C ブロック)に所属し、1 部昇格を目標に戦っています。年々チーム数が増加しており、それに伴いリーグのレベルも上昇しています。

昨年度は多くのメンバーがチームを離れるという厳しい状況に直面し、開幕戦は少人数でのスタートとなりました。正直なところ、試合に 11 人のメンバーが揃うかどうか不安な状態でした。しかし、そんな逆境の中でも希望を捨てず、少しずつ新しい仲間が加わってくれたことで、チームは再び活気を取り戻しました。最終的な戦績は 5 勝 3 敗。9 チーム(C ブロック)が参加するブロックの中で、4 位という結果になりました。まずまずの成績は収められましたが、来年度は 1 部入替戦に進出することを目標にしたいと思います。

昨年と比較し好成績を収められた背景には、昨年度よりも練習の頻度を増やしたことが大きく影響していると感じています。週末の限られた時間ではありますが、メンバー一人ひとりが真剣に取り組み、走力の向上、連携の強化、そしてチーム戦術への理解が着実に深まりました。サッカーは、個人技だけでは勝てないスポーツです。年齢を重ねるほど、そのことを痛感します。だからこそ、仲間との信頼関係や、共通の戦術理解が何よりも重要になります。

ペガサス 40 では、そうした「チームとしての一体感」を何よりも大切にしながら、真剣に、そして楽しくサッカーに取り組んでいます。高校時代、夢中になってボールを追いかけたあの感覚。年齢を重ねても、あの頃の情熱をもう一度味わえる場所がここにはあります。グラウンドに立てば、年齢も肩書きも関係ありません。ただ純粋に、サッカーを楽しむ仲間がいるだけです。

現在、ペガサス 40 では新メンバーを募集しています。学生時代にサッカーをしていた方はもちろん、ブランクがある方も大歓迎です。体力に不安がある方も、無理なく参加できるよう配慮しています。少しでも「またサッカーがしたい」と思った方、ぜひ一度練習に参加してみてください。きっと、懐かしい青春の風が吹いてくるはずです。湘南高校サッカー部 OB の皆さん、もう一度、あの頃のように夢中になってみませんか?グラウンドでお待ちしています。仲間とともに汗を流し、笑い合い、勝利を目指す日々は、きっと人生をより豊かにしてくれるはずです。サッカーを通じて、心も身体もリフレッシュしながら、新たな絆を築いていきましょう。

人生百年時代、もう一度サッカーをやってみたいなと少しでも思っている方は、ぜひ一度ご連絡を下さい。

Never Too Late!!(何をするにも遅すぎるということはない)

2025年度 トトカルチョ湘南活動報告

82回生 篠塚 貴志

何を会報に書こうかなと思い過去の活動報告を見返すと、篠塚が 2011 年に初めて活動報告を書いてから 15 年が経っています。トトに登録してから 18 年が経ち、半生をトトでサッカーしていることに驚きました。するとトトは何年目か、、、? と思い過去の登録書類を見返してみました。

「トトカルチョ湘南」は、代表者を鈴木中先生として 1997 年 3 月に創立され、同年 4 月に協会に加盟しています。平成元年の高校選手権に出場した学年を中心に創立したと聞いています。今年は創立 29 年目であり、なんと来年度末の 2027 年 3 月に「創立 30 年」を迎えようとしています。トトは今年度も登録者 34 名全員が湘南高校サッカー部 OB で構成されており、社会人サッカーチームとしては稀有な組織ではないかと思いますので、来年以降もチームを続けなければと活動報告を書きながら強く感じています。また、創立 30 年を迎えるにあたって何か催したいと考えていますので、トトに関わられた方はぜひご協力・ご参加のほどよろしくお願いします。

今シーズンもトトは神奈川県社会人サッカー 3 部リーグの 3B リーグに参加しています。今シーズンは各 3 部リーグが 9 ～ 10 チームに増え、試合数が増えました。選手権等のスケジュールの都合で 11 月中旬にリーグを終える必要があり、加えて協会から猛暑の 7,8 月は公式戦を行わないよう指示もあったため、例年になく日程調整が難しい過密なスケジュールの中でリーグ戦を行いました。幸い 3B リーグは全試合を消化できる見込みであり、トトもなんとか湘南高校サッカー部 OB だけで全試合を戦い抜けそうです。

リーグの戦績は 10 月末時点で 3 勝 4 敗(残り 1 試合)です。昨年リーグ首位の横浜かもめ FC に勝利しながらも、下位チーム 2 チームに敗戦を喫し、今年度も昇格戦に進むことはできませんでした。一方でボールを保持して主導権を握る時間は明らかに昨シーズンより

多く、守備面の安定性も増していたため、リーグ上位に食い込める手応えを得たシーズンでした。残り 1 試合は勝利して勝率五分でシーズンを終えたいと思います。

年々平均年齢が上がっていたトトでしたが、今シーズンは 99 期 5 名(望月陽翔・望月心平・津留・小林・宮本)・95 期 1 名(桑野)が追加登録したことで、大幅に若返りできました。昨シーズンから継続して 85 ～ 93 回生まで各学年に登録者がいますが、幸福・中澤・大矢・砂流・金清も加え、戦力も増強できました。さらに練習試合には 75 回の松本先輩や 76 回の藤巻先輩にもご参加頂き、驚くほど幅広い世代の交流の場にできたと思います。

今シーズンは 4 月末～ 8 月初旬に練習試合 4 試合・公式戦 4 試合・OB 会で活動し、多くの活動機会を設けることができました。今後も継続して活動の場を設けますので、若手 OB(特に大学生・20 代前半)の皆様は登録している同期・先輩に声をかけていただき、気軽に参加して欲しいと思います。トトは、先輩・後輩の垣根なくコミュニケーションをとり、楽しく試合をしています。シーズン前の 3 月にはトトメンバーで初のゴルフ会も行い、夏には暑気払い、年末に忘年会も企画し、ピッチ外での交流も積極的に行っています。幅広い業界の先輩がおりますので就職活動や人脈形成にも役立ててもらえれば幸いです。子育て世代が急増し、日程調整や参加人数確保が難しいときもありますが、忙しい日々のなかで時々サッカーをしたいと思ったときに、気軽に参加できる環境を目指したいと思います。

ビーチサッカーと 湘南スプレッド1545の未来

89回生 檜枝 賢護

こんにちは。89 回生の檜枝です。昨年から引き続き湘南スプレッドは活動休止中となっておりますが、今回はビーチサッカー界の今後の展望と湘南スプレッドの未来についてご報告させていただきます。

ここで、改めて湘南スプレッド 1545 の軌跡を簡単に紹介させていただきます。2008 年より湘南高校サッカー部 OB を中心に立ち上げたこのチームは、過去、関東大会にて準優勝を 3 度 (10、13、14)、そして、2013 年に全国大会 3 位の結果を残すことができました。日本代表選手もこれまで、合宿に候補として選出された選手を含めて、計 4 名(うち、湘南高校卒 3 名)を輩出してきました。

日本代表のワールドカップ最高成績は、2021 年の準優勝です。そして、この結果をもって日本ビーチサッカー界は次のステージである「プロ化」に向かい始めました。

日本のビーチサッカー界を 20 年近く牽引してきた選手たちが続々と引退を決意し、コーチ・監督・スタッフ・チーム経営者として新たな歩みを始めました。それによって、各チームが「より強度の高い競技志向」と「ビジネスとしてのビーチサッカー」の 2 軸で運営されるようになりました。

その最たる例が、「ビーチサッカートップカテゴリ強化リーグ」の発足です。これは、プロリーグを目指すべく、そのプレリーグとして運営されているものです。サッカーでいうところの「J リーグ」に当たります。2025 年度が 4 度目の開催であり、2027 年度のプロ化を目標に毎年改善と新たな試みを実践しています。

今年度は 6 チームでの開催となりました。誰でも参画できるわけではなく、全国大会の最高成績や所属選手数、ホームタウンでのイベント実績や財務状況など、「プロ」として活動する意思があり、活動できるチームに絞って参画が認められています。現状としては、まだまだ選手も設営などの準備に入りながらの運営とはなっていますが、年々観客スタンドの設置など進化を遂げており、観客数も増えています。それに伴い新規スポンサーも続々と参入してきており、「ビジネスとしてのビーチサッカー」の土台は完成しつつあります。

また、「より強度の高い競技志向」についても各チーム取り組んでいます。今までは選手兼監督が主流でしたが、現在は JFA 指導者ライセンスを取得した「監督」を配置しより戦術的な練習を取り入れるチームが増えてきました。

私が現在所属している東京ヴェルディ BS でも、選手引退後も競技に関わりたいと考えている選手たちは、チームのスタッフやリーグの運営理事としての活動も始めており、今後はより組織的な競技運営が期待されます。

最後に、湘南スプレッド 1545 はトップカテゴリ強化リーグの参画条件を満たす数少ないチームの 1 つです。私は、ビーチスポーツが盛んな湘南地域にこそ、プロビーチサッカーチームが存在すべきだと考えています。ビーチサッカーは決して簡単なスポーツではありません。競技の本当の楽しさにたどり着く前に辞めてしまう人も大勢います。それでも週6日ビーチトレーニングに励み、もちろん仕事もきちんと取り組む。それくらい価値のあるスポーツでもあります。

Always do what you are afraid to do. 最も困難な道に挑戦せよ。この言葉にぴったりな環境です。ぜひ、どんな形でも大歓迎ですので、OB の皆様には引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いします。

2025年度 スペイン遠征

66回生 渡邊 水樹

2025 年春の湘南高校サッカー部のスペイン遠征に帯同医師として参加した 66 回生の渡邊水樹です。駄文ではありますが、遠征報告をさせて頂きますので、しばし、お付き合いして頂ければ幸いです。

私は昭和 63 年に湘南高校サッカー部に入部し、1 年時に藤塚久雄先生（54 回生）の指導のもと 26 年ぶり 6 回目の正月の高校選手権に出場した年代です。4 月にサッカー部に入部した際、部活の給水用ボトルに「全国制覇!」と書いてあるのを目にして「そんな大それたことを」と思ってしまったのですが、その 9 カ月後に全国大会に出場しました。これは 15 歳の私には驚愕な出来事で、「目標を諦めなければ叶うことがあるのかも」との思いは今も苦しい時に思い出す記憶です。高校卒業後は横浜国立大学の体育会サッカー部に入部するも 3 回の左膝手術を受けたことを契機に医学部に行くこととし、23 歳で浜松医科大学に入学しました。以降は、たまに有志とボールを蹴る程度です。

今回、遠征参加に至った経緯は、2024 年 7 月の藤塚先生の還暦祝いの際に若木均先輩（64 回生）に声をかけて頂いたことでした。帯同医師は 7 ～ 10 日ほどの時間を作ることになります。とすると、開業している医師は本業（医院）を職員とともに長く休むこととなり、これまで帯同して頂いていた若木均先生は大変に大きな御負担の中で継続して頂けていたのではと感じています。一方、私のような勤務医であれば、開業医の方々よりは時間を作ることが可能と感じます。幸い、私が部長をしている聖隷浜松病院の脊髄脊椎外科・脳神経外科には中堅医師や研修医が多く、比較的に参加しやすい環境でした。ちなみに今回の遠征を経験し、生徒たちの体調不良については内科的な経験、ケガについては整形外科的な経験がある医師で、なにより「院外での活動に慣れた医師」が適任かと改めて感じました。

以上のような状況に加えて、私の人生の糧となっている湘南高校で若木均先輩から教えて頂けたことも大変に心強かったです。

さて、今回のスペイン遠征は 3 月 21 日に羽田空港に集合し（生徒より多いと思われる御家族に囲まれながら）ミュンヘンに向かいました。税関では少しだけ生徒をサポートしましたが、多くの生徒が自分の力で問題なく EU に入り乗継便でビルバオに到着しました。翌日以降は宿泊ホテル隣接の簡単なスタンドがある芝生グランドで、半日はトレーニング・半日は観光との日々でした。4 日間のトレーニングのうち 2 日間は、スペインのクラブチームのユース世代の監督をされている岡崎篤さんに指導して頂けました。岡崎さんの指導は理論的で明快であり、生徒にとって大きな糧になったであろうと感じました。

また、観光はビルバオ市内のみならず久保建英選手所属のレアル・ソシエダのホームタウンであるサンセバスチャンの街並み、アスレチック・ビルバオのホームスタジアムであるサン・マメスの観光、SD エイバルの 2 部リーグの試合観戦などが出来ました。観光の際、生徒たちの自由行動の時間が多かったものの迷子や盗難被害などの問題は生じませんでした。それ故、顧問の屋比久祐太朗先生、副顧問の辻直也先生、JTB の名古屋修人さんとともに大人時間を満喫できました。

ほかにも現地の Gastelueta 校との同世代同氏の交流会もあり、最初は互いに言葉も少なかったものの、すぐに笑顔で交流し始めていました。これらのバスク地方の状況を含めた経験は、生徒たちの将来のどこかで役に立つであろうと強く感じました。ちなみに、私のホテルの部屋に個人的に相談に来た生徒が数名いました。医学部進学の相談であり全力で経験を伝えつつ、文武両道の湘南高校を実感しました。

ビルバオに 5 日間滞在後、観光目的でマドリードにバスで移動し

ました。ただ、マドリードではトレーニングが無く、日本での業務があった私はビルバオから日本に帰国しました。マドリードに行けず残念でしたが、私の病院の後輩が 2027 年からレアル・マドリードの帯同医師養成コースに入る予定なので、湘南高校とレアル･マドリード下部組織とのゲームが出来ればと妄想気味に目論んでいます。

最後になりますが、今回の遠征には 1-2 年生が全員参加できたようですが、今後、経済的な問題で参加困難となる生徒がいるかもと危惧しました。既に十分に検討した案件かとも愚考しますが、OB 会として経済的な生徒への対応を準備していくのも一考かと感じました。選手権の出場から既に 36 年ほどが経過しサッカーを取り巻く環境も年ごとに変わっている中、私立の強豪が犇めく神奈川県大会において湘南高校が再び上位に進出することを願っています。

顧問より

代表顧問 屋比久 祐太朗

今年度も、OB 会の皆様にはあたたかいご支援、ご声援を賜り誠にありがとうございます。

はじめに、OB 会の皆様のご支援により、今年度も湘南高校サッカー部海外遠征を無事終えることができました、この場を借りて御礼申し上げます。この遠征を通じて、現地の指導者によるトレーニング、スペインプロクラブの試合観戦、世界遺産の見学など、日本ではなかなかできない貴重な体験をして選手たちは様々な学びがあったのではないかと思います。私自身も、スペインでは『サッカーが文化になっている』という話は聞いたことがありましたが、実際に現地で体感することで、学べることがたくさんありました。この遠征を行うにあたり、事前準備から様々な場面において動いてくださった OB の方々、同行してくださいましたドクターの渡邊様、本当にありがとうございました。この素晴らしい経験を選手、スタッフ一同、今後に繋げていきたいと思います。

さて、今年度は顧問に新しく鈴木先生、村松先生の２名を迎え、より充実した環境で１年間を戦うことができました。大会結果についてですが、関東大会予選ではベスト16をかけた戦いで平塚学園と対戦し、善戦するも０－２と悔しい結果となりました。総体予選でも１次予選のブロック決勝で敗退と、あと一歩が届かない状況が続きましたが、選手権１次予選では難しいゲームをしっかりと勝ち切り、２次予選に進出することがきました。２次予選は市ヶ尾高校と対戦し、PK 戦の末、敗退となりました。勝つことはできませんでしたが、最後の最後まで必死に走り続ける姿は、今年のチームを象徴していました。遠いところまで足を運んでくださり、熱い声援を送ってくださった OB の方々、保護者の方々、本当にありがとうございました。

また、リーグ戦は A チームが県 4 部で 1 位、B チームが県 6 部 3 位で終えることができました。この結果、来年度から A チームは 3 部に昇格し、より高いレベルで 1 年間リーグ戦を戦います。B チームも現段階で確定はしていませんが、5 部に昇格できる可能性が十分に残されています。このような成績が収められたのは、3 年生を中心に昨年度のリーグ戦で感じた『常に強くあること』を目指した結果であったように感じます。

今年の３年生は真面目で一生懸命な学年でした。毎日の練習、走り、練習試合など全て直向きに取り組んだからこそ、苦しい試合も勝ち切り、2 次予選進出とリーグ戦昇格を果たすことができたのだと思います。この一生懸命さを忘れず、受験という次の勝負にも向かっていってほしいと思います。1, 2 年生については、3 年生が体現してくれた『毎日の積み重ね』を大切にしながら、もう一度基礎基本から見直し、今年度の結果を越えていくことを目指して日々精進してまいりたいと思います。OB の皆様の今後の更なるご活躍を祈るとともに、引き続きの温かいご支援の程よろしくお願い致します。

顧問より

顧問 村松先生

今年度、異動してまいりました村松芳樹と申します。現在は指導に携わる一方で、広報活動を任せていただき、Instagram を通じて活動の様子をお届けしながら、部活動がより充実したものになるように校外に向けて発信をしております。まだ至らない点も多いかと思いますが、OB・OG の皆さまに親しみを感じていただけるよう、一生懸命努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

顧問より

顧問 鈴木先生

日頃より、サッカー部の活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。本年度より顧問を務めさせていただいている鈴木将史と申します。湘南高校は3校目となり、初任校の伊勢原高校、前任校の湘南台高校においては女子サッカー部の顧問をしておりました。なかなか毎日グラウンドに出られませんが、日々の練習や試合においての選手たちの熱量に感心するばかりです。選手たちの目標達成に向けてサポートしていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

現役部員代表より

2年生 矢沢 勇人

今年度、現役報告をさせていただきます 2 年矢沢勇人です。日頃より、OB 会の皆様からの温かいご支援とご協力により、日々充実した活動を送ることが出来、成長を感じていること、大変感謝しております。その感謝の気持ちを持ち湘南高校サッカー部として全員で精進していきたいと思います。

また、今年 3 月に OB 会の皆様の多大なるご支援、ご尽力いただきスペイン遠征に行くことが出来ました。スペインの現地チームとの試合や試合観戦、コーチの指導から日本とのサッカーの違いを肌で感じ、学ぶことが出来ました。スペインの高校生との交流や観光を通してサッカー以外のスペインの文化にも触れることが出来ました。この貴重な経験をサッカーだけでなくこれからの高校生活、今後の人生にも活かしていきたいと思います。

そして、今年 8 月の「夏の集い」では OB（48 回生）で、前神奈川県サッカー協会会長の関佳史さんに「神奈川サッカー王国～基礎を築いた鈴木中先生～」というテーマで公演会を開いていただきました。鈴木中先生が神奈川サッカーに多大な貢献をされたこと、今私たちが湘南高校でサッカーをするまでにどのような歴史があったのかなどを学ぶ大変貴重な時間になりました。

9 月 27 日の高校サッカー選手権市ヶ尾戦を持って 3 年生が引退をしました。今までチームを支えてくれた 3 年生 15 名の引退によって 2 年 14 名、1 年 14 名の計 28 名の新チームとして伝統を受け継ぎ、全員で切磋琢磨し合い高め合っていきます。

日々の練習では、技術で劣る我々が勝つために走り込みやクロスからの得点を目指す練習を多く取り入れ、全員がハードワークをし、戦うチームを目指しています。他にも、毎週木曜日にはてトレーナーの方を呼びウエイトトレーニングや走り方を指導をしてもらう事、栄養指導や怪我に対するケアなどを様々な方から指導を受けています。1 人 1 人が自分と向き合い最高のパフォーマンスができるように努力していきます。

今年は今のリーグの制度になってから初めての K3 昇格を達成することが出来ました。これまでよりも強い相手と 1 年を通して戦い、チームがどこまで通用するか、そして格上の相手にも臆せず勝つために取り組んでいきます。また、インターハイでは 1 次予選で敗退となり、選手権は 1 次予選からのスタートとなりました。負けたら終わりのトーナメント戦で、部員全員がそれぞれの役割を果たし横浜清陵に勝って 2 次予選進出を決めました。2 次予選では市ヶ尾を相手に後半ロスタイムで同点に追いつきましたが PK 戦の末敗れました。今のチームはあまり人数も多くありませんが、全員で同じ目標を持って助け合いながら活動していきます。

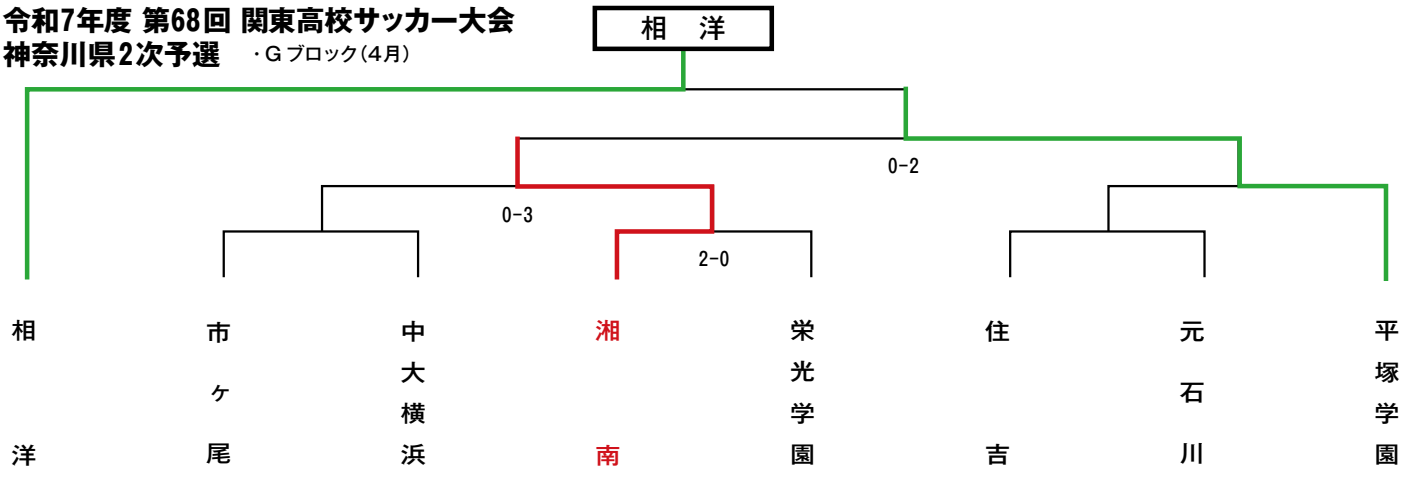
部員一同、屋比久先生をはじめとする先生方、コーチの方々のもと、取り組んでいきます。OB の皆様の温かいご支援には大変感謝しております。これからも変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願い致します。

現役戦績報告

【総評】（昨年度）今年度の３大会とも勝ちきれない試合が続いてしまいました。どの試合でも好機はありましたが、『ゴールを奪う』『ゴールを守る』というゴール前での力強さの違いが結果に差を生んだように感じます。来年度はさらに勝負にこだわりを持って取り組んでまいります。

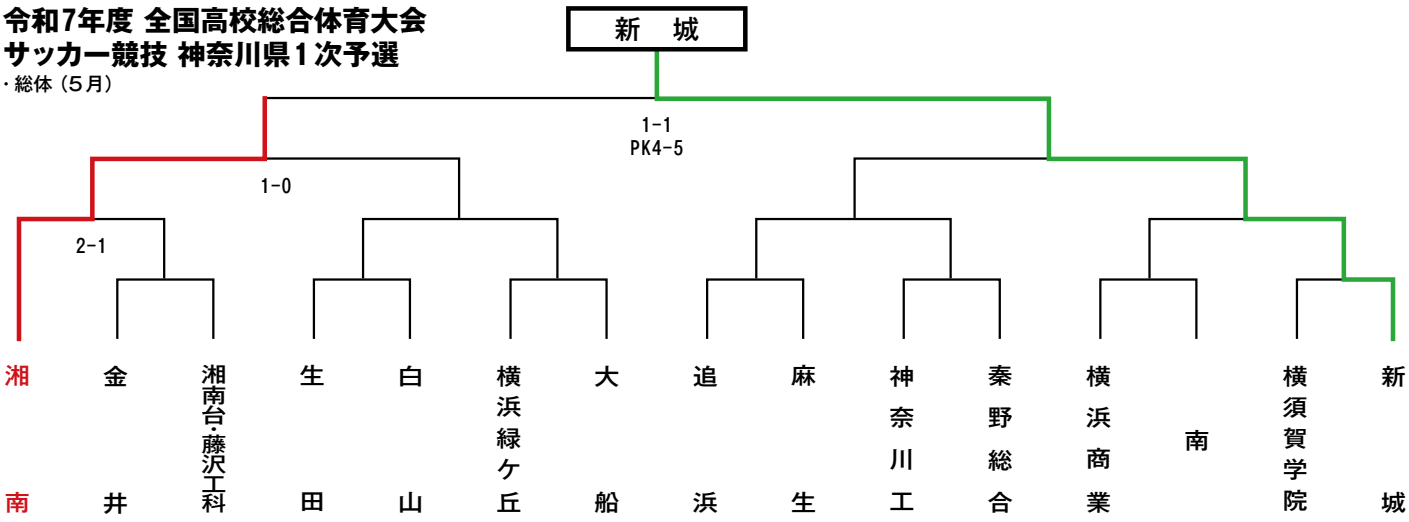
令和7年度 第68回 関東高校サッカー大会 神奈川県2次予選

・Gブロック（4月）



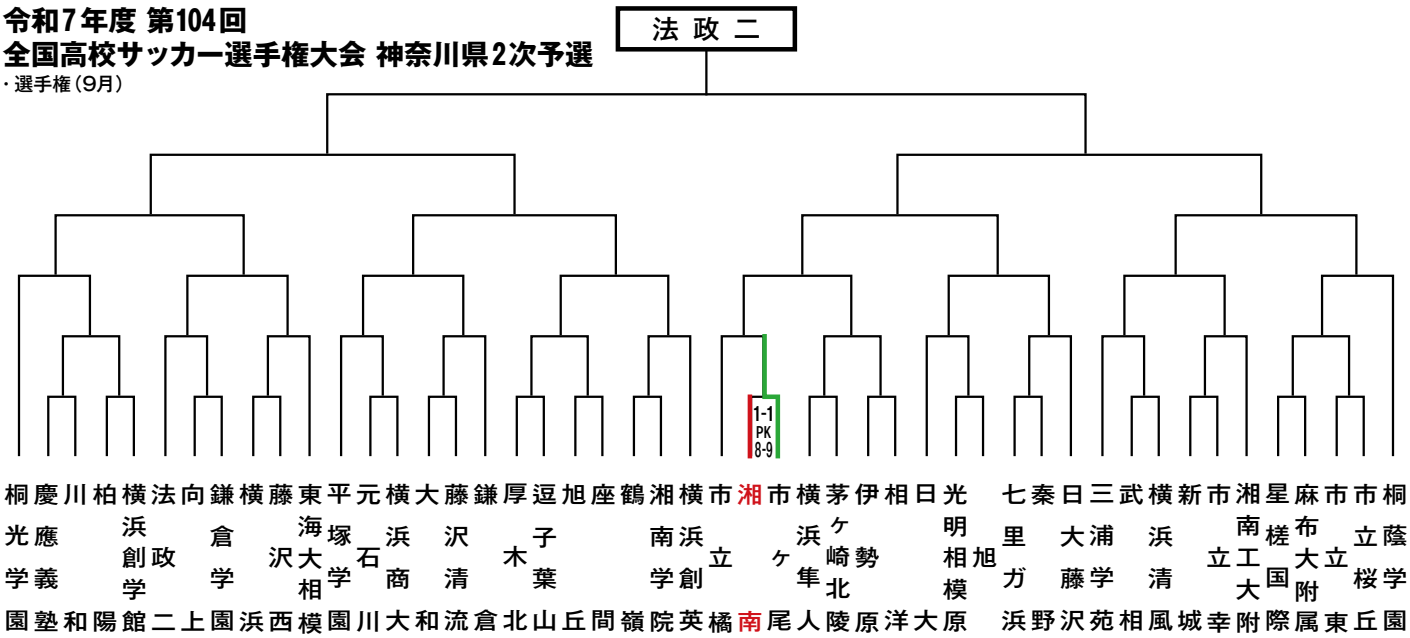
令和7年度 全国高校総合体育大会 サッカー競技 神奈川県1次予選

・総体（5月）



令和7年度 第104回 全国高校サッカー選手権大会 神奈川県2次予選

・選手権（9月）



令和８年度会費納入について

若木　均　OB会事務局 64回生

令和７年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。

・社会人　1口 5,000円　　・学生　1口 3,000円

蹴球祭当日受付けを致します。御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願い致します。また下記銀行口座（横浜銀行、ゆうちょ銀行）も受け付けていますのでご利用下さい。

尚、お振込みの際には必ず卒業年を入れてくださるようお願いいたします。

（例）54 回　藤塚 久雄　⇒　54　フジツカ　ヒサオ

・横浜銀行　本店　普通預金　口座番号 019166　湘南高校サッカー部OB会
・ゆうちょ銀行　湘南高校サッカー部OB会
（ゆうちょ銀行口座からの振込）記号 002109　番号0037313
… 郵便局にて同封の払込取扱票もお使いいただけます。
（他の銀行からの振込）　029店　当座預金 0037313

＊令和７年度会費納入状況（40回生以降。10年代ごと集計。2025/10/31現在）

・40-49 回：22/133 名 (16.5%)　・50-59 回：23/165 名 (13.9%)　・60-69 回：24/194 名 (12.4%)
・70-79 回：1/197 名 (0.5%)　・80-89 回：11/214 名 (5.1%)　・90-99 回：12/233 名 (5.2%)

令和７年度会計報告・令和8年度予算案

収　入			支　出		
項　目	令和７年度	令和８年度	項　目	令和７年度	令和８年度
会費・寄付	964,000	1,130,000	現役寄付	500,000	300,000
繰越金	3,914,350	2,452,240	蹴球祭	37,299	70,000
利子	3,199	＊＊＊	印刷費	287,230	250,000
合計	4,881,549	3,582,240	通信・事務費	203,980	180,000
＊令和７年度会費納入状況			スペイン遠征(積立)	600,000	200,000
（2025 年 10 月末現在）			コーチ謝礼	250,000	120,000
社会人 97 名、学生２名：計 956,000 円			スペイン遠征英語研修謝礼	80,000	＊＊＊
エンブレム代　1,000 円 × 8 ＝ 8,000 円			HP 設計外部発注	470,800	＊＊＊
＊令和８年度収入見込み			OBチーム支援	＊＊＊	200,000
130 名（社会人 120 名，学生 10 名）			幹事会会議費	＊＊＊	20,000
（10,000 × 100 + 5,000 × 20 + 3,000 × 10 ＝ 1,130,000）			繰越金	2,452,240	＊＊＊
			予備費	＊＊＊	2,242,240
			合計	4,881,549	3,582,240

令和７年度現役寄付・会計報告

収　入		支　出	
項　目	令和７年度	項　目	令和７年度
繰越金	0	遠征補助	74,500
寄付	500,000	トレーニング用品等	78,500
合計	500,000	会場・試合等	20,000
		参加費等（選手権広告費含）	59,000
		ボール	18,000
		コーチ費用	250,000
		合計	500,000

令和7年度 蹴球祭・総会のご案内

～旧交を温め、現役を激励しましょう～

期日： 令和8年1月11日（日）

場所： 湘南高校 大会議室・清明会館（研修室他）・グランド

時　程：

09:00 ～ 09:45	幹事会【大会議室（校舎3F）】 職員玄関から右手側の階段にて3Fへ
10:00 ～ 10:45	総会【大会議室（校舎3F）】 職員玄関から右手側の階段にて3Fへ
10:00 ～	蹴球祭着替え【研修室（清明会館2F）】 •10:00 から終日使用できます。　•ゲーム後、シャワーを利用できます。 ※スタンドでの更衣はご遠慮ください。
10:30 ～	蹴球祭受付【坂道の上】 ※会費納入者にはお弁当をお配りします。
11:00	現役との対面式【グランド】
11:15 ～ 12:45	現役 vs 若手OB（原則40才未満）交流試合【グランド】
12:50 ～ 14:20	若手（原則40才未満）紅白戦【グランド】
14:25 ～ 15:55	OB・ペガサス（原則40才以上）紅白戦【グランド】 ※各ゲームは自由参加、事前エントリーは不要です。 ※各ゲームの時程は目安です。進行は当日調整します。

編集後記

54回生　藤塚 久雄

今年度もOB会活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

大先輩の29回生塩川儒広さんが、90歳プレイヤーを顕彰する「寿ユニフォーム」を贈呈され、41回生の植松さんが2回生であり長年にわたりサッカー部のご指導に当たられた岩渕二郎先生を描いた「岩箱（がんばこ）」を上梓されるなど、今年もOBの皆様の吉報をお知らせすることができました。

2025年3月の現役スペイン遠征には、66回生の渡邊水樹さんがお忙しい中、帯同医師としてご参加いただき、事前の語学研修では46回生の森秀樹さんにご指導をいただきました。

恒例となった8月「夏の集い」では、48回生の関佳史さんによる講演をいただき、若手OBと現役の交流試合、シニアOB同士の紅白戦で楽しい1日を過ごしました。

サッカー部OB会ホームページを45回生の朝倉泰さん、69回生の浜崎さんのご尽力でリニューアルいたしました。サッカー部のアーカイブ、OBチーム「ペガサス」などの活動、現役の様子などがご覧になれます。ぜひご利用ください。

令和8年度事業について。

これまでの事業は、現役寄付とOB会報作成・発送、蹴球祭・総会、夏の集いの開催が主なものでした。OBの皆様がよりOB会活動により関心を持ってもらえるように、これからは、OBによるサッカー活動の支援も事業化し、OBチーム「ペガサス」などに対する活動支援（今後3年間限定）を行います。OBの皆様の新規加入を後押しする活動に活用する資金を提供します。

現役に対する寄付は、現役部活動にスポンサーが付くことになったことなどを勘案して減額します。

スペイン遠征については、学校行事として定着したことを受け、支援金を減額することにいたしました。

これらのOB会事業に対するご意見やご提言などは、1/11の総会にてお願いします。

会計報告にあるようにOB会費の納入状況は年々悪化しており、特に、スペイン遠征を経験している70回生以降が低調となっています。

OB･OGの皆様には、現役生への支援、OB･OGの親睦が今後とも継続できますようご協力をお願いいたします。加えて、各年代別OBサッカーチームへの新規ご参加により、県内リーグにおいて「湘南」が消滅しないよう、ご検討をお願いいたします。共にサッカーを楽しみましょう。